東山雙林寺に本阿弥
あるころ光阿弥陀仏に似たる
親しく一字の草書を成給はず
文阿弥に志を発し新に図絵
松まつりといふ事ハ八の文
あくるあした あしたよりなきよしとなりけり

蓋聞徳光四海の
内に蓋聞諸侯
人民を撫
育し八百年
間西海の
波穏なる
事
是
天
皇
の
御
治
世
なり
と
雖
も
東
国
に
於
て
は
平
将
門
を
始
め
奸
賊
蜂
起
す
る
故
に
諸
国
の
人
民
を
悩
ま
す
る
事
なり
と
雖
も
其
後
は
平
将
門
を
誅
し
奸
賊
を
鎮
め
て
国
家
を
治
む
る
事
なり
と
雖
も
其
後
は
平
将
門
を
誅
し
奸
賊
を
鎮
め
て
国
家
を
治
む
る
事
なり
と
雖
も
其
後
は
平
将
門
を
誅
し
奸
賊
を
鎮
め
て
国
家
を
治
む

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政甲寅晩春

小海[illegible]書

追善之俳諧

[illegible]乃俤諧[illegible]飛胡蝶　宗文

[illegible]百[illegible]の[illegible]　廣明

[illegible]月明く　芦渡

[illegible]し　茅嵐

[illegible]　寒選

[illegible]　左草盃

[illegible]　其成

名くりき結ぶの松もゆむ世小　良文
誰ゝ庵をさきく人ぞ苗代立　一茶
三七日新をとるも嬉るゝ人　蕪村
爲ふりかすする二鞠乃家　霞章
云ゝ左日柳信きてよんゆも　等庵
雲やさらやゆるゝん花の茂小　桃隣
鞦韆乃綱新結ふ茅屋かた　古壇
拝訪きてもゆ人のるき　志遠
文乃新鮎と掛今〳〵古傳米　素風

何ぞ伏見新やさん雄さん　青海
弁新根手蓮ゝるゝ日の社　子路
急ゝ物見ゝ高山乃桜　李明
口と隅川八勅梅八素や孫ん　兎文
神手きゝよ新手里あふ　九雷
総角手必繋生ふを結きて　宜意
小死の業新軒菓ゝ也　白来
里ゝふゝを雪や雪ふゝ　沙丘
義世ふ女乃形ゝ義　湖川

杜桂
催む
冬月
健方
鰹文
嘯宇
夏子
一の方
斗酒

尺菓
雪舟
妙鏡
芳蝶
我山
芝山
楚湖
蘆洲
之蘇

[illegible]
申しく舟乃屋を離るる
引きたるふるさとをかめ岩
久家あまた一般たこそん
[illegible]乃縁をつたふうち
[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]人の小神[illegible]

自嘆
好縁
稲田
[illegible]
業古
[illegible]
巴陵
[illegible]
古声

[illegible]村[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
夏橦 椿[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

不本
百雪
本姿
利雄
本尻
角尺
習之
蓮寺
[illegible]明

しすとみせてあくる也花の宿　星宗

うつゝ乃境の秋を文よむ　白雲

絶々なき投壷の音を試み掃ひ　護丹

十年るあり思ふこそ任　佛大

芝所吹ゐ鶯の使まち侘て扇　都雀

麺するあとくみそて寝迎　可天

銀ほしきためし柄をとりて見て　志江

芝まで繊き家　五六軒　梁窓

秋　枝なく二日三日ならの蓍　士朗

風ふ咲そよふ川原撫子　玉屑

露来酒醸路と見て白小袖　許六

名もしらぬさと　瓶売あるき　雁九

根芽まくまうへふ出嵯峨縁や　定雅

陰陽石を呑る捨ひねし　梨松

言うしぬ色さうかする垣の内　古俵

除生三日乃月を縫ひ　蒿舟

酔ともそれ薬するふ引汐平　蒿坊

やましたなあそ発廣く由　雲波

見市は所詠とあれども
哥市乃哥をとかくまるや
樣先ゝ涼しきを所詠
森見てくれまとを酒盞の中
高ゝくねれの上に三年無
不動乃歌ゝ月新
茅名葉潜り山の穴
よてまつるき鮭のほうきを
右一首

百浦　百浦
梅本　梅本
南栄　南栄
角崎　角崎
茅河　茅河
宮田　宮田
蝶夏　蝶夏
百浦　百浦

高砂葉ゝくれの月新の
ゝゝや霧ゝゝ帰る
ゝゝ四月ゝ
月乃ゝ
杖乃ゝ
伊ゝ葉ゝ
鶯乃ゝ
手向ゝ
対ゝ

高山　高山
鹿野　鹿野
茅尾　茅尾
城南　城南
芦毛　芦毛
八ゝ　八ゝ
ゝ茅　ゝ茅
呼子家　呼子家
杏高　杏高
ゝ
蕗口　蕗口
山科　山科
茅夏　茅夏
呼子家　呼子家
五重　五重

梅人

[illegible]

文凡　ハシ
平吾
[illegible]
[illegible]
志清
[illegible]　サカ
角惟
波牛
二雪

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]村
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の枝　一の楽
[illegible]　[illegible]　吉女
[illegible]　[illegible]　サカ　榎海
[illegible]　[illegible]　梅科
[illegible]　[illegible]　女　[illegible]
[illegible]　[illegible]　サカ　一雪

夕さりや物くるしき唯秋の風　麦子
柳葉ふる春八月白くさらさら　赤果
芋ゆきまれの松も時雨し　菊屋
降るうるおつのうるおひ月新宮　一甫
雪ふる柳ゆしきの月　秋篠
雪恋の月新も自ら角太郎　宗舟
風や降るこの宮の宮の柳　宗長
月代や乗るきらと言の宮の　紀芳
隅帰りしろ白加茂　米弱

二条の新殿深き　斗言
ゆくとき乃色ふかき　厂園
新しきく桐は春ふかく　南果
朱ふる柳は茅の白の萩　茅河
芋苗は奥ふかむ秋田　梨風
きふはなれ雲は時雨　来石
作くして雲はなりさくられ　月桂
雪ふる茅ふる向ふ　時中
世やかよは茅之ふ水　一斗

百丈の樹かつらの花ぞ　　志四　猪雀

元ゝ志伊ふきふの月の命　　彩成　青牛

月を見よまとゝぬ杖乃跡　　志山　李白

夕ゝ新新元年よ春の明ゝ光　　芙八　蝶白

むし立てふ新しいの元年と　　平松　志宮

まつゝふ祝ゝき消くゝ志ゝ　　西俊

百ゝ野や世界ゝふ桃の風　　杉江　李風

伊ほ屋ゝ小刀きゝふ夫ゝ白　　周路

るゝゝしやけゝゝさゝ帰ほゝゝ　　小清　青花

年ゝ罪ゝきゝ人の毛ゝ藤ゝふ　　青松　飛川

けるゝ手や世ゝの古行ゝふゝぬ　　お山　月窓

花ゝ中ゝ世ゝゝゝ拾ふ花ぞ　　大は　め龍

むゝゝゝゝ明や毛隆ゝゝ山　　元末

元ゝ元ゝ風ゝゝゝゝゝゝ　　一花

秋きゝゝ木綿ゝ風ゝ深ゝ　　芙八　桃家

ゝゝゝゝゝゝ明る乃紙ゝ塚　　ゝる文　江山

る二ゝ松乃戸ゝゝゝ芋ゝゝ　　青松　留戸

ゝゝ月松ゝ風ゝ元ゝ義ゝ　　藤示　曉宇

[illegible]　　去山　春風

小田荒乃[illegible]　　田川　人菊

梅やなや生百[illegible]　　河内義投　かな

引汐よ[illegible]　　[illegible]　正平

[illegible]月[illegible]　　[illegible]　古之

[illegible]　　星田　田毛

[illegible]　　伊かく　五明

梅や[illegible]　　十二八　二柳

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　伊年　[illegible]

[illegible]　　中花

山[illegible]　　、

本[illegible]　　、

[illegible]　　泊帆

[illegible]　　尺艾

[illegible]　　かなえ金長　栗山

[illegible]　　、春吟

月をもて世界をてらすかな　（住吉）　風逸
雲ふかき物の自しやまとよる　（新宮）　宗久
梅さかりこゝやこの世の玉　（金沢）　松栄
家をもて世界をこむ杭と帰るる　胃山
角をもてこゝろを世界をたゝく　一杉
春風やうゑ木をかぶる吹かるゝ根　玉佛
ゆ一筋や皆一枝乃自尺人　馬来
ゆゝと雪を吹矢ふるゝ樹ふ　竹坊
筋やさゝ川七ふる梅ふ江海ふ　岩逸

雨吟屋仙

雪ふる間一世をとゝとゝ雲の陰　（かゝ本吉）　春選
蝶ふるさとふ家ふ日乃色　宗文
星人乃ゆき言をとゝるゝ　〃
とゝとゝ雨ふ海宴ふする　選
自然き梢乃空ふ籠雲雲　〃
我乃小貝ふ今ふ落きき　文
我人ふとゝ屋ふ梅くらん　〃
梅を空ふく行ふ半ふ　選

三百年ばかりの昔うたふる
ものゝ云ふまでもなきの漏り　文
皇後住吉の社に詣でたまふ世とかたり　〃
無邪志の国にて行幸して　選
六月の月の雨なほふる浜庭に　〃
嵐荒しほひ光し　文
新の御ぬつきの姫乃庭に　〃
まうでたまふの書きを惜すること　選
なるを裏を様を極めしく　〃

金松ひの頃の乃中　文
なつかしき物を武さまあや　〃
宮殿中宮とうすてやうき　選
生まれたるのきみ新宮まうしん　〃
ゐてなるふ木の本の花なる比　文
すまふるふ生まれたまふと告ふて　〃
ひきうとうきしこゝ石る乃口　選
お坂新宮の宮もの乃やうに　〃
ものを入て新枕すること　文

今宵の月さやかにて自然の徳
おもしろきの伺ひと時雨声　選
ふるさとの帳とりくしたる事
人目絶えるふるさとの荒屋
柳ちるとなる淮北の月
山もとの世話もいつぬ世こそ　選
草蔭の蟋蟀と清水の音
言葉ふるふるさとの
四五すぢ実生活まるむの陰

、
、
文
、
選
、
文
、

そそそそそふる春の静　選
遠ふるの涼ふるまる明
宇ふるふる沛新や打も秋の情　而来
邑茅屋ぞやふるふるの新人　亜三
手月やそ行ふるる月ふる　杜市
際の雲高ふる雲ふる田ふる秋　菓郎
光陰やむふる成今ふる際秋月　景雀
みれもの一の百ふと時やふる塚　蓮路
五年ふかふぬ秋や月秋形　芭丈

（年譜掲載）

手習や芭蕉の翁を世にしらる　肥後
灯明をともさぬ草の庵　吉汲
西上の秋月のもとや長夜堂　卜史
まぼろしの道や秋の旅すがた　嵐艾
手の数草に咲くちくさ白し　完秋
梅の木やむかし西まで秋の色　百芳
稲の穂やなはハツとも夜の海　文江
草の露も古き佛かな　巨山
百とせに近しや優曇華の花芭蕉　嵩平

月ながら百とせの秋をとふ　李丈
時鳥啼や仏明の一里塚　上毛厩橋 木兎庵主 兎柳
秋風やのこるはつも一さかり　若殿 秋斗
風生れて松白やかねさる　、桂斗
青柳や秋まで風も吹かね　荒口 羽箱
咲やさくら世にとどく古木雁　奥社 之通
春風吹く遠山の梅草ぞ咲く　生ら絵 素泉
梅と見ん香風に残て墓の花　、素僚
梅が香や里の流の人もがな　相生 草葉

曙はなれぬるやほとゝぎす　、
庵時雨や風にたゝかふ行燈　、
雨まとゝけりかゝる巨燵　、
仮宮やきのふ仮ゝ橘乃上　素信
月詣し枝折まゝや猶牛　、
風寒し月に尾花の生ぬ　、
鶏やゆうすゝ霜の月　、
とこうこと星もくゝ小雨時雨　鶏形　岩苔
新酒ゆゝまあや岸の角　吟　玉

山さくらこゝらも夏地くゝ有元　梅城　素小菜
しつゝと雪に折てゝ雲帰る　甲　雪角
手に菓子廣屋成集ふり春ず　、　素四
落ゝと乱のみちや乱庵猫　、
何すゝまゝ雲ゝ雲ゝ未種ゝ　、
あゝゝ三ゝ鶏ゝゝ竟ゝ　、
蓑笠ゝゝ鶏ゝ夕りや村時雨　、
ゝゝ雲ゝ世ゝゝゝて夏ゝ　、
涼ゝゝ俗ゝ人ゝ乃橋乃上　、

中しの乃ぢハ雪ゆゑ
祖父母の像とあり一首秋部

[illegible]　翁
[illegible]　教授

[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
朝顔乃何くれなゐ時雨のゝち枕
〃
[illegible]　〃
嬉輝く初雪[illegible]　〃

[illegible]　春たち
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　春舟
[illegible]　春東
[illegible]　〃
[illegible]　春す
[illegible]　春之

四位　通輪

雄

女　貴

丁峯

素因

[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　、
白梅　　[illegible]
むさんやな桜乃もとのみちゆき　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　孝浪
[illegible]　　素堂

きふもの[illegible]山路や雪[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　李堂
[illegible]　　陸子
[illegible]　　百之
[illegible]　　士卯
[illegible]　　、
[illegible]　　木春庵　米砂

[illegible]
作り路に[illegible]
[illegible]
月小[illegible]
百[illegible]
[illegible]
[illegible]
百回忘[illegible]
[illegible]

、
、
、
太郎 ツルカ
星霜
脱俗
雪
[illegible]
雅

天下[illegible]百回忘
百[illegible]
[illegible]
湖[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
月[illegible]
[illegible]

海天
角原 さよ
[illegible] 巨川
西津 漁林
、鳥友
竹
スノ 菅蘭
、巴瓢
イトノ 兎葦

夕風にたゝやすらふ遠さとの
うきりてそ初るゆふ時雨
雪の朝やまもれる山もとの
花のかをりの
ゆふ月
花の香に世をそなるまふの白しぶ
、そこ之
、百尺
ゆふ月
玉史
四季歌
こと
、神祐
千人
書社

四月雨
大伴
川田
佳紀
四月雨
本居清
神祐千人
大國
壺玉
莫社
妻秀
妙女
白元

頃ゆきにけるとも咲ふやあをきを
夜そのとゝ出ぬきく清し神乃風
ゆきや曇吹丘乃雪ふるゆふ
仕へきぬ世と祈そうきふ社
百くさ乃色ぬ花ふるゆふ
ゆ〳〵の雪吹ふ花ふるゆふ
花さそうきる百とも桜乃葉
花を祈さそうきる神乃手向ふ
手向ちやそなぬ山里桜花とも

紫雲英　二葉
正月元日の朝雑煮　仙
うたてやな今も様々咲なり　春日
嘆の屋敷の吹き出ふき　波弓
此うらきくなまこと何きを夕涼を　枝果
山うけの上の下くに毋乃涼を　東
芝やまと胡蝶きき鳥つうし　士沈
むらふまの咲きしかやまの五　井角
野ゐをりふきもの白しが　羅小

棟ちり先ん落ちを恋の角　生徒
まもなく細き細の弱乃笹　孤酒
ほんのうたてきくや世の山さくら　古校
恋と御恋ふるうたうまもなく　冨宣
うきくの橋や恋ようき恋ふ扇　麦九
京神も陽の時の橋の月　玻卜
乃ゐ祝ちを稚きまつうや　柿眉
列ふる神の印のたひらぶ　玉史
百年の上けり祝時やほうきた　宣毛

夕雲や蕾の花の笠の中　孤舟
雪捨ふりや雪さらさらけ星　文鼠
朝の月相乃雲の吟濃く　金瓦
月向すふ雪の花さらさら　楚東
鶴の雪や梅も雪ふる神の日　柳汀
風流乃第の世雪ふ扇うち　似休
立の月雪の花きらきらの雪　彩山
ほとときす吟や雨の雪の中　☆市艶
吟雪の むらく雪ふく　雪涼

吹ふふ雪雪ふの雪の塚の風　阜明
雪の雪の山りと塚の雪の雪　梨邑
ふふく雪ふの雪の雪の雪　改子
雪雪ふふの雪の雪の雪の日乃情　書雪
思涼ふふの雪ふ涼しふの雪　雪玉
雪の雪の雪や雪の塚乃雪の塚　（春の京山）雪桂
山ふふふ雪ふふの雪の雪ふ　、
面ふ雪ふふの雪の月の雪ふ　、
ふふふふふ雪ふの雪の雪　、

吹雪まきまくてき光りかな　（は）荒屋

幻住庵し懐旧

まなびしよりつ吹花のもとかな　、

月出るやまくらもとき原の坂

遍う鳥とつきなくぬまや村時雨　、

秋乃色あるつて深きうち　（白子）時雨

京ちかく夕山吹乃光りうれ　、常川

咲るかこの山ゆ　、

月新やはるあるむ玉まつを　、

清風や月とふる中ぬ吹　、

夕新乃光りうるとこの秋　（山内）栗毛

寒こそ一点小倉白うなる　、時山

芝ふやかなれ咲まと時ふる　（東山）玉集

一つとんを入るつやふ茶　、氣宝

庶乃時山ふるうる青川也　、思秋

沢新ひ雨ふ柳の結ひ紙　（ふ）芝亜

立ふやは月新ふ角田川　（ふ茶ひ）月谷

月秋やり時もまき入れ　（は）雪芝

ふるかに暮ふ初屋　、意江

見えそめし蓬萊まての硯の波　　知足

ほとゝきすや去年にてきゝつるの声　　郡山　穐屋

若葉みや内侍所の枕　　遠州　寂白

御忌詣や生花をうけて帰る　　三州　木朶

石山や月の明方の鳴雉子　　遠州　木騎

ふたまやたまちりて塚の時　　甲州　暮眠

むまれつく月にやさしき芭蕉かな　　上総　和秀

若みどり松の若葉に蟻とまる　　小松原　静蓼

追てゆく鳴くも加はるやるかな　　藤井　化良

月消て舟の鑑の鳴蛙かな　　漢茵

名月をとくも照す保山かな　　一瓢上

秋の川や清めらるゝ人の秋　　黒沢坊

蜻蛉や蔵にうつる余陰の二つかな　　武州本庄　双烏

涼しきや松の下影の泥障哉　　淅江

朝涼し笠木除ての颯あり

きえて行たきかくれ里の深泉かな　　蕉井

時雨ては山も又昏てかく　　僧　駒牛

来る年や神のみ空のいるみかな　　素浣

[illegible]の[illegible]の[illegible]川に養ふし　[illegible]
[illegible]　女　[illegible]
[illegible]人や[illegible]　一馬
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　江戸　菓明
[illegible]　風化
[illegible]　[illegible]松
[illegible]　[illegible]舟
[illegible]の旭
[illegible]　[illegible]支

六月や人の[illegible]　洲山嶽
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]白
[illegible]　[illegible]
[illegible]梅一本　柳秀
[illegible]　魚柵
[illegible]　表宣
[illegible]　赤霧
一[illegible]の[illegible]　許一

、芳蘭
七十七
、菜の花
同
、曙藤
女
、山涯
女
、二江
、宗旦
東武古人
、左勢
京ノ人
、梅茗
、天秋

武山
、巣松
宝暦作
、高梅
下毛
栃木
、人樹
、妙隠
、文賀
、野雁
、古延
、雅句
、木文

春雲ながれやまの氣色
落花雨てこそ松を掃うなれ
多摩ゆいふつまなつふ荒屋ぞ
遠き雲走てひらを掌に吐る
涼しさや松の木くれ川のる
そのもあらを春日の景色うらを
川舟や柔むしの誘ふく冬涼
うきをくるふ柳ぞやをしまを
山ちや佛法僧をむ月ぞ

加戸 鳴石
足利 和井
佐野飯田 芳二
、 蓮
、 梨相
、 盡伯
宮村田 移舟
鳴山

塩谷田 嘉江
、 柳刈
下野 涼山
佐野 家副
桐井 和柳
行倉 暁給
、 仙丈
小倉 胡蓋
根井 胡月

紫ふ海を雲ふ入きるを山さくら
落ぶ松うをみをうを井ぬきを
暁ゆ月ぞ
涼ふ清ゆ世ふを庵のわちふ
ふるふ中ま多の傍ををを
ワまふふを玄本の株ゆ遠さを
多多や星うきつきふをを波
ふきを月や玄の中ゆを春月を
笹を傳てもとを思ふ故性の星ぞ

夕霧乃さくらよ深む山毫哉　　良尾　小坂　移風

風雅哉出くる月の曙くさうる　　、文志

浪下入ひくしや立きき猶秋　　小川　元有

本かしやサあくすも明る赤柏　　モノ　文曙

ふるみもるぶ猶も庵一夜哉　　二千ノ　星青

やりるれ行くる降もり春哉　　城下　一竹

毋ほ出くるる毋ほきあ人ぶ　　金子　泉

こくしや杉よ行くる表の春　　フクシヘ　康志

帰くるや花ふるる秋の風　　文浦

秋くる陰やさくよ中よ的明ふ　　松本　一秀

松小あ下曙くよ明きうる　　、

辻当よ猶書し秋乃年　　、

あくしよ立ち芭大立ぶ　　、

陽炎やかさなる新の陽ふる　　青丸ち　文北

宗左る山くるよ世と緑ら　　、

洗くき猶もくよ夏ほ　　、

窓内きくるふ表の二人ぶ　　二的巻　白徒

夕ふ行立も寞かなの百年忘

梅の香を昔忘るな山里の
春や夢　神楽
玉ぼこの道あはれ乃妹天の原
古郷乃月
嘯て
玉しく乃玉つくるとて御簾
錦
春ぞ野や色の
陰ぞや色ふる
信濃四　文耕
、思一
、花明
、文清
下ノカタ　之茂
信四　和静
、星三
、知足
、花友

古郷乃ゆふあらしあといとく深し
袖板ぞ
新
玉
紅梅や何
色蘇乃春
前
乎
、兼子　下条　之茂
、和慎　上総　光寺
、汀鬼　上毛
、翔宇　丹波　梅本
、湖仁　柏本
、菊耕　紀州　高野山
、枕石
、桂山

古池や不二にも春哉なく蛙　淡州 東樂

風雅之子代まて百よ桃の花　、篤葉

しとゝへる宗喰ふめん枝乃松　土佐 芝山

牛市や芋哉追ひかゝるの幟　讃州仁保 指弓

雲ふみ家す崩して蓑と笠　一瓢

刈株もや尼の菴乃糠蔕　一葦

樟脳乃ことさる香や蛍哉　玉羽

真菰やさつきみる瀬戸の川　但州生野 涼秀

潮し星る家れ夕夏の月　、文賦

かきつばたさゝやされの水乃路　備中笠岡 松秀

家々かさなるふちの花の哉　、文里

なきとしや今も昔も雛月　松山 杜陵

若葉もや出るしもの白し香　備中倉敷 萬人

下ろる札さころも売とつる秋月　、江也

小鳥鳴く行きふ迎へ天ちぬ　、玉井

本つゝしみ呼ぬる山乃ひつき哉　伊予新山 李乾

ことゝめいえぬ一本花ももの更も咲く

翁之忠のこゝろに従ふて伝へしるく挙哉

[illegible]

十月の十五日てうり[illegible]　伊勢之京　何がし

[illegible]戸の月

籬張の[illegible]獲[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

遠くなりや[illegible]の[illegible]

川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

世[illegible]平氏の[illegible]

[illegible]

永き夜[illegible]の郷の月

[illegible]

[illegible]

女子たちはなれうた
ゐるうめの木のかげ
はるかにまちしの陰あり
山ぶきもむかし世事をわすれ出
ひとりうたをうたふ
ゆふもまた梅うめ未清雲月
京さとにさうぞうしかりを
かくて吹俳枕を　夏　雄
探千つゆ中風涼しき

面うめ浦乃うら松色清
初しいきもして路遠近
大うらうら月雲
新ワまうこと
彼ぬまてをの
砂　夏うめ　る中庭
緒的ト四のうの交
雲遠きうすうう
百くうをうをの

ふるも陰まつ世をうつす
ふるまつ世梅をのふるり新
百とせをへきやよ向をのふ
るをりやふるそひをく春ふく
十六事や秋の言乃おとをる
病人のこのむ書を大根川
ちるしくむ[illegible]のけるを
芭蕉ひとつ附る京下葉まて
梅ちるく新降るをる白しを

京都時中
一の女
伊賀紫苑
菖蒲
萩寿

塚のまる時やけるの夕烏
古塚や七人ちくなく性
少しもしぬ塚よ雀の寿ける
百年を春ふ時ふ稀なる
雪乃降る姿や化しん老を
月雪乃降やちとを雪乃塚
小梅や紙事の中ますを
茅舎をもふ春ふ情ふ
白魚や移のの磨ものの人を市

虎渓
陸奥
千里
南枝
竹子
風雪
竹尾
東井
寿雄女
雪雀

今もなを塚乃新うめ古志乃屋、芳壺
墨ぬりハ少路の紅葉、蝶素
なつかしき芝の浦風、羽中
塚乃ぶ和ときき清水、九成
きをめや時雨下ぬ海、金元
風や清つく修とうの、丹木 蝶色
明月や白き志りむ海乃果、蓋江
清水ふ素や一天ぬ雲ぬ、波月
志ぬ素や神代のふるとうの、アサ 羽翔

和ちし未ふ西ぬ雲ぬ秋の山、高 孤甫
名乃志ぬ白ぬ雲ぬ志ぬ新堂、秋吉 市蝶
新宮乃神代ぬ浦ふ舟乃音、用吉 吐波 青郷
移ぬ母宮く川の底ぬ入梅雨、羽仙
夕ぬ志ぬ波ぬ白ぬ、猗作
月ぬ雲ぬ波ぬ志ぬ行の中、大佐 梁形
走ぬ志ぬ蘭ぬ乃素ぬ乃ほぬ、羽琴
ぬ移帰て沈深のぬ底れぬ、
既ぬ志ぬむ久ハ之ぬ 鶴生山、

海棠や日ハさらにさくみだれ哉　　下津今 呂考

漱ぐ手に秋やしれ雲しけり　　安由

梅ちるに付夕暮の日よりかな　　樂夏

鳴ますに寒さをわすれし雲雀かな　　明羅

十六夜ハ雨をはらふ月夜かな　　宗□ 鎌牙

山寺の法ほとなきハ宗祇なる　　助月

漁火やほたるよりにも寒さかな　　佐賀 東濱

よく見まハ霧に雲ゆく尾花秋　　山口 其心

捨らるゝ山里ゆかし郭公

隠しもはなかなか花火哉　　雨也

若竹や降らぬ雨をも雫哉　　奇乃阪 鵜雨

押舟のしらみて寄る雲の海　　鶴路

春もまた浅きにかゝる郭公　　巨勝阪 榮堂

出水何くみまして青き柳哉　　鳴竹

中々に晴てるや海青し　　雨竹

庵破風の梅の子る日哉　　渓光

雲のほる風さまや秋の月　　梅枝

其外ないし寝待月　　萬之舟

清水に桜ちる夜の月かな　高石
ゆくすゑ思ひやる春の雨　深橋
初雪や袖に捨て蛍のし　書渓
掃きすてあとの柳の下うつる　巴蕉
明くれば風に吹かれて柳下
立て月や松風ときき高野山　孤峯
先案や折て惜む仲春波　射石
惜しみ川相撲の声哀なり　桃之
遠雲の乱れやすらん雪　孤月

梅ぞ咲き初めよりこそ旭ぞ　天民
弁慶しれ乃すまれる福年　〃
小夏や百とくに成る東北　〃
枯芝に彩字てて原まるう　〃
り春や雲を惜しみ入れも　竜翼　百梅
半ばくるるの友年枯神ぞ　〃
市に業も降るるる荒ぞ　雄芝
芋ぬるるる日も出る京師ぞ　丁鏡
藤や立て咲しなく月の新　崎仙

世代ゝ[illegible]ふるん[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、閑和
、技み
、芝崇
女 かよ
、柳
、以枝
、[illegible]頌
、七児
、菫樗

出[illegible]
本[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、白赤
、星宴
、樗二
、支白
、雲人
、[illegible]涼
三尼 宇宙
[illegible] 名山
、宣吉

白魚ト初ル汐乃春明ル　東篤
月落テ何ヤラたゝぬ海猫ノ　雲子
まゝ子ノ春ヤ巨燵ヨリ宮ノ風　羅風
酔伏シ中ニ月見ル初ル春　伊春
宮月ヤ迷ヒ出ル夜ノ一陣ノ　馬夕
秋ノ夜ノ旦神ノ吹キ衣ヒカリ来ル　星山
名月ヤ和村乃始志ノ行くゝ　某屋
石山ヤ宮ノ月ノ風ノ風　某屋少蓋　白葉
花ノ雪ノ春ノ彩ヤ山ノ出て来ル　松夕

四京　雲色
柳川　雪海
　　
　　
某屋東之西　比作
　　一矣
　　水ヲ

何の[illegible]も[illegible]
稲[illegible]
秋[illegible]
都[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山鳥
[illegible]
男性
休茂
[illegible]
紀州熊野
楽只
平戸早岐
[illegible]
、[illegible]
、伍口

[illegible]
[illegible]
、[illegible]
、梵風
女
十流
、又矣
イサハロ
[illegible]
平戸
[illegible]
紀州
作
瓶玉
山南
一月

世縁ちや佛ゑ[illegible]ゑ 徳 鉢

[illegible]ゑ佛ゑ[illegible]ゑ 清恵

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 市住

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 女 梨枝

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 尼 嘉香

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 梅仙

一[illegible]ゑ[illegible]ゑ 化仙

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 結不 結不

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 [illegible]

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 飲嘉

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 龍寺 鈴塚 文星

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 金子

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 士沃

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 社月住 芝風

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 月本 宗西

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 梅屋

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 帰来

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 、 市鍛

[illegible]ゑ[illegible]ゑ 芳文 文紀

多やまさくらあさ日さし時ふる雪
清ふかきさくら雪ふるまつ風ぞ
桃さくや庭りさくらの新朝
風吹風ちるさくらの下枝の里
四ちるさくらの下くるや塚の枯尾花
さくらちるさくらの新の雪
ちるさくらさくらの枝の墓うめ
何しまちん共明の水を時雨
鶯鳴うしはれ上乃春日雪

女 つる
魯丙 陸志
中山 花能
柱木 後風
羽多 月桜
クラテ 茶流
黒崎 安心
、 霧法
、 何とと

塚枯尾花 東
、 樗六
、 高雪
、 高山
、 宮
本屋休 青而
、 木耳
黒崎 柳
日本 茅敷
、 虎山

うきワきくしつくまる塩の市をかき
粥焚て僧空鷺の加乃宣
年ゝ社皮一ふしてくるる
しかしくしく人まつるやせ中
空ふる古屋吹しつる秋の風
藤六ゝ似ごとを宇五上の庇乃宣
ちりかたくこつよ志ふる月
惜ゝ秋つく時宣ゝ三年経
ほゝきん乃本ゝ神ゝ

、茅宣　肉糸
志山
十二八
不休
、志仙
、文屑
庇坊
ちりかた
秋尾
一南　活
ふ村

夕ゝや物ゝ思ふ秋乃宣
志ゝや言ゝ伯母の家
茅ゝ中ゝ嘯乃宣
吹ゝ来ゝ牡丹ゝ蝶乃光乃宣
秋乃宣霜乃形ゝ咲ゝ
ゝ秋乃行宣ゝ宣の秋
柳ゝ中ゝ和ゝ外ゝ一ゝ
秋もゝ百ゝ自ゝ檜
叶ゝ物ゝ遷化の山ゝ物語

ナ二八
江涯
ゝ世乃
一九四
日朝
九才
茅式
文多
ゝ秋
吳清
文多
少三
十干
、五義
下多
俳千
庇言

是まで乃色に似する花火哉　下総佐原 香取東部 中村 東竹

豆引や河原院も世のなごり　一笑

猿ハやすめぬきてたすする山の形り　女 忠舟

朱雀乃帰阿らも見つらぬ苔清水　大和 一の井

稲妻や目出度ゆる日や初給　桔梗 龍野 十如

餅酒にふくらむ腹を喜ぶ那　奥州ツカル 卜只

星ぬきてでもとどや落雀　文石

羽折って秦ハ花しぬきとりんこゑ　五葉

青かな陰乃田みぢか咲かりし葉　巴一

帷子も襟をしこたし秋の風　安和

鉢さゝきいわの時打ち桜花巾　蕪児

嵐さくまれなるやまた墓前　呉江

蝶しのぬまる千疋の陰のよき　宜應

表六句

引汐乃海尾藻外にして陽のちる　攝南 戸口

拙しむかゝき松乃小嵐　五斗

確つきぬ内ハ桂を我もぞく　宗史

酒ときこゝし石大れなる　平水

若き月緑の松ながらもほのか　卿月

嘶とまこもふる秋の細道　子雲
青海原ちりぬきものせし海士乗　戸口
一志きり花かしまの本立　雪舟
枯葉や猫乃ちるする新世帯　大住　柳月
月無や海ゆく鳥乃新たなる　子雲
名月や浦ゆく鳥乃海乃底　冨士　泉川
寒ちるとかんちるつ張り　斗酒
陶器乃木綿伊ふく礼りと　安年
竹青や庵ゆく訓ぬ士衣　法　梅李

立ちのや雪之ちくくれる　〃
ちみち会ちや点伝之乃寒る　〃
杜丈鳥や安ちたくる川の筋　〃

手向

ちれ青ちとちとワちくるる　長野　立る嵐
ちちくれ乗乃ちし伝乃毒　辻村　子鶏
菜畑や面ちれ、ち根世の自ふ　伊丹
嘶ちれ世と思ふ市ば　石ア　良定
訓ちちるちくれ隠ちる思ふ　〃　鬼渕

あらし嶺やさそひあらしの限りなるか　タイコ 百暁
月花の恵みられ百回忌　江戸 菫斗
るゝ降るゝ葉や法の為　加賀 露逸
月花も今そ手向ん句の為　江戸 柏也
百とせもきそ帰り日の花曇り　善光 一の鯤
手に持も梅やうら花苦みか　尾四 雲裡
冷泉くの今むや花のあと広し　宇治 潔田
花みて百杉もまかと祈りけり　伊勢 古声
時鳥法花経の声くらまか　ハリマ 妙境

百とせ重ぬる庵の菜　荘介
碑や鋳中藤澤まく洗ひけり　り郷 里栄
根つよきの手向ぞ尽し百大根　、ゝ天
跡の末も世をたの花咲かさる　不木
芳清し雅も百とせ忌日し　宗瓜
百年の世の師ふ花の残さるん　木兌
花暮みさら百年経る句みぐ　利雄
百年のむかしを今の句ひかり　ツカル 几兮
人とられ百千鳥となりけり　木汶め

木曽ゝ川さゝゆしやをれ笹　百合
五月雨ゝ川ゝ水のゝ白ゝ波　一の太
ゝゝとも乙ゝてあをれ麦ゝ畝　丈ゝ子
菖ゝ蒲ゝ信濃の赤も白ふる　白米
きゝゝ川ゝ信濃世ゝ降雨の時ゝ水　菊傳
雨ゝ乙の赤ゝ赤ゝ川ゝ白しゝ水　みの
赤ゝ沙羅新緑の赤ゝ蝶赤ゝ　さわゝ之藤
菖ゝ蒲ゝ和ゝ名もるゝ〳〵ゝ　は徐
百ゝ年も稚義悪ゝ　おゝ之

百ゝ姿のもゝ〳〵ゝ　寒菊
もゝゝゝ蕾ゝ　雲ゝ
梅柳ゝ雨ゝ　元百　佛大（タイコ）
百ゝ色ゝ芍ゝ　尾花　士朗
赤ゝ面ゝ　、　孫六
きゝふゝ月ゝ　かゝ　兎文
山ゝ吹赤ゝ　、　梨松
色ゝ好中ゝ　紀好　蛙
ゝれのゝ　、　尺菓

月花あつまきをぢたちの御はぶ　尚人
神なし春も去くるふる十二日　定雅
をゝ一木さくらうゝ世よ咲ぶ　斗宿
きつやこうよをの名所ゆ　古体
うゝ山ゆゝ落もゆゝまきゆゝ　健方
百ゝ春やゆゝ本の色乃咲梅ひ　鯉文
ゝ把ゝ生新ゝゝ色菫　強丹
井ゝつゝ去ゝふゝ乃横ぶ　志江
をよゝも拉ゝゝゝゝの鶯ぶ　彦丸

ゆしゝゝき御はゝよ法や色紅葉　彦丸
紫紅ゝと色ゝゝそゝふ慧　土卵
ゝ向ゝや枝つき梅ぶ色乃旅　杜桂
拉ゝゝけや明れ色乃ゝゝ山　城南 ゝ坂
色すゝりてゝゝ何とふきゝゝぶ　青河
百ゝゝや茅ゝゝワきぶさゝ　ゝ江 祝山
去ゝゝつゝも色紅ゝ恵や玉年忘　左 俱志
色ゝゝゝけゝ新ゝふゝ向ぶ　山彩
ゝゝゝのきゝ不一の恩徴や志俳ぶ　巴慶

百年以今も弟たちの苗　一雪
人きたりて忘れん時ぞ思ひきる　古壇
なぬもやうしらぬ似る者の迹　寒月
まんさくに春忘れぬ日の年を経る　白雲
百しまやまた世乃春は金　月峰
まちまち二月ふる雨ふる　笑雙（ザツ一）
忘さうに今ろうれみて笑の何と　牛歩
あんすれるとふるうとも　芦涯
ふるうらうらの笑やの忘　郁雀

忘れぬ今も白みや笑の跡　昌明
赤の魂忘れ公の信ふうん　左盃
さうとふるふと笑のもも家弧　玉屑
きふとふもも百日　自も十二月　鍔美
百当百回忘の附来りまて遠との
風の遠音の俳諧とはたらうふ小
きれつの玉笑歩一の信遠よりて
ふうふふふふ高
おきれ月ふうふ

と世を迷ひ人と捨きるふい
芭蕉翁をとゝ
高野とうふ徒ふ
きふ
世の上ふ
なる
策更
九拜

義二乃出
ふく
世を
よ
あ

書林

京麩屋町通三條上ル丁
勝田吉兵衛梓

同 三條通御幸町西入丁
菊舍太兵衛